

2024年度 第17回全日本ユース(U16)水球競技選手権大会【桃太郎カップ】【戦評】

会場： 児島マリンプール

【2024/12/24】

女子Aリーグ戦

京都府選抜 12

4	—	4
1	—	3
4	—	4
3	—	1

12 神奈川選抜

PSO

西原 明日美

審判:

河口 太郎

この試合のプレー集計

京都府選抜	20	SH数	21	神奈川選抜
	4	速攻数	3	
	10	ST・SB	7	
	12	SH・P誘発アシスト	9	
	29%	GK阻止率	20%	
	2	EX反則数	7	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

今大会の開幕戦は、予選リーグ戦の中で男女を通じて最も注目を集める対戦となった。3連覇中の京都府選抜に対し、堅い守りから素早いカウンター攻撃を得意とする神奈川選抜の強豪対決。②大前率いる京都の攻撃を神奈川がどこまで守れるかカギとなってくる。京都側としてはGK⑬飯川を中心に、神奈川の速い攻撃を守り切ったからの攻撃パターンに持ち込むことが勝負の行方を左右する。

1P

ピリオド序盤、両チームとも持ち味を発揮し、点の取り合いから始まった。京都は、エース②大前をベンチスタートにして中学生選手主体で臨んでいたが、それでも得意のセンター攻撃を軸に、対する神奈川は、スクリーン攻撃を仕掛けパスワークから強力なシュートを放つ。どちらもオフェンスがディフェンスを上回る形で攻防が続く。ピリオド終盤、同点に追いつかれた京都側は、得意のセンター攻撃で⑦園が見事に決め1点リードを奪う(京都4-3神奈川)。このままピリオド終了かと思われたが、神奈川②佐藤がブザービートSHを左45°から豪快にネットに突き刺しこのピリオドが終了(京都4-4神奈川)。

2P

ピリオド序盤、1Pとは異なり、お互いがゴールまでボールを運べない状況が続く。京都は神奈川のスクリーンに対し、プレスDFでミス誘う。一方、神奈川は、京都のセンター攻撃に対し、下がりDFへ作戦を変更してカットする場面が増えた。しかし神奈川は、下がりディフェンスに変更したことにより、得意のカウンター攻撃に持ち込めない展開となった。その中で均衡を破る1点目は神奈川。1ピリオド目と変わらず泳ぎでディフェンスを崩し、退水からの得点。神奈川側はカウンター攻撃が仕掛けづらくなった分、ドライブやスクリーンなどを使った攻撃を仕掛けることで、連続得点を重ねる。京都側も退水、ペナルティを誘発しチャンスを作るも神奈川ディフェンスに苦戦を強いられている。ピリオド終盤、神奈川がこのピリオド3点目を入れ試合の流れを神奈川のものにする(京都5-7神奈川)。

3P

2点ビハインドで迎えた京都。ここでエース②大前を投入。神奈川側は②大前に対しての下がりDFの姿勢を見せるが、攻撃ミスから京都が退水を誘発し、そこを京都⑨沼井が決めて1点差に迫った。しかし、神奈川はすかさず③神原⑭島崎が連続得点。京都の守護神GK⑬飯川が初戦ということで十分に対応できていないタイミングで加点した形。対する京都は②大前が6m付近でボールを受け、神奈川DFを軽々と回してトップ位置から豪快にシュートを決めた。このプレーに会場は大いに沸き、試合の雰囲気が変わってきた。神奈川も流れを変えるべく、京都の攻撃中反則から得意のカウンターを繰り出して④古田が決めて再び3点差に広げた。そうした神奈川優勢の中、②大前がペナルティシュートを決め、さらに②大前がゴール前で退水を誘発して⑦園が決めて1点差に迫った。負けじと神奈川も相手のミスを突きカウンター攻撃からの流れで③神原が決めて第3ピリオド終了(京都9-11神奈川)。

4P

京都としては2点ビハインドの状況で始まった第4ピリオド、センターボールを取ると、いきなりセンター攻撃から⑩吉田が得点して1点差に迫る。何とか取り返したい神奈川だが、京都のプレスディフェンスに苦戦し、パスワークが発揮できずオーバータイムからカウンター攻撃を許し、同点へ追いつかれてしまう。ここまで、1度もリードを許していない神奈川が意地を見せて、③神原が左サイドから得点を奪い、1点リードする(京都11-12神奈川)。『1点』を取りたい京都と、『1点』を守りたい神奈川。互いに焦りが見え始め、シュートまではいくものの、得点できず、ミスをしてしまう場目が多くなっていく。何としても追いつきたい京都は、残り7秒、GK⑬飯川のカットからエース②大前が得点し、同点に追いついて試合終了(京都12-12神奈川)。

予想通りの接戦となったが、京都にはまだ余裕のある状況。予選リーグの同組内の3位チームとの点差が決勝トーナメント位置を決める形となった。この引き分けを活かし、組1位通過を果たすためにも神奈川はこのあとの予選リーグが非常に大切になった。